

令和元年度 兵庫県立上野ヶ原特別支援学校 学校評価

評価基準 4…よくできた(8割以上) 3…できた(6割以上) 2…あまりできなかった(4割以上) 1…できなかった(4割未満)					
教育方針	「子どもが自分らしくのびのびと心豊かに育つ場を目指して」児童生徒一人一人の障害の実態や特性に応じて、意欲的に生きる力を養い、社会的自立に向けて、個々の教育的ニーズに応じた指導と支援を行う。				
学校経営の重点	1 保護者や地域から信頼される学校 2 地域のセンター的役割を担う学校 3 明るく元気で活力のある学校	本年度 学校経営 の 重点	(1)他の学校や医療機関、福祉との連携の強化 (2)研修等を通してのさらなる専門性の向上 (3)風通しのよい職場づくりによる学校力の工場	本年度 学校経営 の 重点項目	A 教科指導及び生徒指導(道徳・人権・自立活動・特別教育活動を含む) イ 健康管理に関する指導 エ 地域の特別支援教育のセンター的機能 カ 関係機関との連携による指導・支援 オ キャリア教育・就労支援の推進 キ 地域住民との協働や理解促進

評価	A	B	C	D
集計平均	4～3.21	3.2～2.41	2.4～1.61	1.6～0

本年度の重点項目(ア～キ)	番号	分掌等	本年度の最重要目標と具体的方策	職員評価	職員集計平均	総括(成果及び課題と改善方策)	学校関係者評価
(2) アイオ	1	小中学部	児童生徒の実態把握に基づき、心身や障害の状態に応じた課題や目標を設定し、見通しを持って主体的に生活する力を育成する。	A	3.26	個別指導と集団指導を適切に行うことを意識した。個人の課題に丁寧に取り組み、小さな成果の積み重ねが着実に力をつけ成長することにつながっている。来年度の指導にもつなげていく。また、小中の連携を大切にし長期的な視野で指導にあたる。	○教員の専門性 -先生の知識・専門性の格差が記述されているが、一人ひとり特性も障害も異なって大変だと思うが、日々の研鑽とチームワークが重要である。学校関係者・保護者ともに期待を寄せているのでよろしくお願ひしたい。 -教員の専門性に差があるとの意見があるが、実際にはわからないが学校の風通しがこのような意見に影響しているかもしれない。保護者と職員がもっと話ができる機会をもったり、子どもに関わっている相談員や事業所も含めてその子の教育・暮らしを話し合っていくことで、より専門性のある学校教育となるのではないか。開かれた学校づくりは、日々の連絡ノートやブログだけでは成し得ない。
	2		体験活動や集団学習をとおして、互いに協力し楽しさを感じることで、主体的に学ぶ力や社会性を育成する。	A	3.29	校外学習では施設見学、外食学習、公共交通機関の利用などの体験ができた。情報機器を使ったり、同じ体験をしたりして事前、事後学習をし、主体的な学びにつなげることができた。今後も体験活動での学びが社会性につながるよう、日々の学習と関連づけて取り組む。	
(2) アオカ	3	高等部	組織としての専門性の向上を目指すため、クラスや学年等の教師間の連携と協働、または家庭や医療、福祉等の専門家との連携によって、個々の課題に対する適切な対応と、きめ細やかな教育活動を行う。	B	3.16	授業や生徒支援等について、クラスや学年で検討し、共通理解を図りながら取り組んできた。障害の多様性に適切に対応するためには研修や専門家との連携を深めることが必要である。	
	4		卒業後の生活を豊かにするための情報活用能力の育成を目指し、「情報」の授業の指導案作成や教材研究に取り組み、また、その他の教育場面で効果的にICTを活用する。	B	3.11	「情報」授業の取り組みはまだ始まったばかりである。ICTの環境整備の充実を図ると共に、更に教材研究に取り組み、活用できる教材を蓄積していくことが必要である。	
1 キ	5	総務部	安全安心な学校づくりを目指し、火災・地震避難訓練を毎学期実施し、阪神淡路大震災の記憶を忘れないよう防災教育を推進する。また、交通安全教育の充実・努めるとともに、職員に対しては7月末に不審者対応研修を実施する。	A	3.32	5月と10月に火災避難訓練を、1月には地震避難訓練及び防災学習を実施。阪神淡路大震災の映像を見たと本校で備蓄してきた非常食を試食した。不審者対応研修は警察の緊急事案が発生したため次年度実施予定。	
	6		開かれた学校づくりを目指し、きめ細かな情報発信に努める。本年度はマ・メール(携帯連絡網)を活用してブログ更新の紹介を毎月配信するとともに、教育活動の様子が保護者にわかるようブログの更新頻度を増やす。	B	3.19	携帯連絡網を活用しブログの更新をまとめて発信した。本校に関しては前年度より更新頻度は増えたが、さくら訪問学級等保護者と離れて暮らす児童生徒ほどネットを利用した情報発信が必要だと考える。	○学校施設・設備関係 -学校施設全体が暗く感じる為、廊下や教室、庭などの掃除や生花など、明るく希望を抱かせる雰囲気をお願ひしたい。 -学校全体に物が雑然と置かれていて、落ち着いたお子さんがいるのではないかと。
(2) ア	7	教務部	新学習指導要領の実施に向けて、教育課程を編成し、個々の教育的ニーズを踏まえた個別の指導計画を保護者と共通理解しながら作成する。	A	3.38	新学習指導要領に基づいて、教育課程を編成した。家庭訪問や個人懇談を通じて共通理解を図りながら個別の指導計画を作成できた。移行期間中のため、次年度も継続して検討する。	
	8		表簿等は「記入マニュアル」を作成し、説明会等を実施して、適切な記入、保管が行えるようにする。	A	3.34	記入説明会を実施した。児童生徒指導要領の様式を新学習指導要領に合わせて変更した。次年度は表簿の電子化に取り組む。	
(3) アイ	9	生活部	児童生徒の疾病・障害を踏まえた生活指導を行うために、児童生徒の実態及び健康状態を把握していく。各学部学年主任や生活部員を中心に情報交換を行っていき、共通理解を図る。	A	3.40	各学部学年の児童生徒についての学校生活や体調面等の情報や支援方法を、専門部会で情報を共有し、職員朝礼等で共通理解を図った。登下校についての指導は、スクールバス委員や生活部員・担任と連携を図り、支援や指導を行った。今後も学校内で情報交換を行い、支援を行っている。	○情報の提供・発信 -「4」の回答割合に着目すると、児童生徒のことや校内のことは対応ができてきているという強みがある一方で、情報の提供・発信、外部機関との連携、協力といった学校外との関係がやや弱い姿が見えるように思われる。 -こうした特徴は貴校だけでなく、学校や各種公共機関・施設などには共通するものだと考えられるが、今の時代には求められるものであるとの検討の余地はあると思われる。
	10		各行事において児童生徒が主体的に参加できるように配慮した環境設定を行い、生活体験の拡大を図る。	A	3.30	児童生徒が、主体的に活動できるように、各学部学年との情報交換を行い、行事の活動時間の配慮や、内容の変更・活動場所の温度調整等を行った。今後も、児童生徒の実態や体調等に配慮し、実施していく。	
(1) イカ	11	生活部(保健)	学校生活をより充実して過ごせるように、登校後の検温や健康観察を毎日行い、家庭や医療機関と積極的に連絡を取るようにする。	A	3.40	児童生徒の検温チェックや健康観察を毎日行い、健康の維持や感染症予防を行った。体調の変化を読み取り担任と情報を共有することにより、より迅速に家庭や医療機関と連携をとれるようになってきている。	○保護者との連携 -保護者と学校教員の定期的な交流、意見交換などを行うことにより、今保護者が思っていることなどを後向きにしないで聞き解決ができること、先生の熱意や取り組みなどを伝えて安心してもらえることなど、やりあえることが増えるのではないかと、保護者・教員も子供達の成長を確信し、気持ちよく、コミュニケーションを取りながら子供達の支援について、お互いを高め合いながら進んでほしい。
	12		医療的サポート推進事業実施委員会や医療的サポート担当者会議を定期的に行い、指導医・主治医・看護師と連携を密にして医療的ケアを必要とする児童生徒のニーズや保護者の要望に応える。	A	3.24	医療的サポート推進事業実施委員会や医療的サポート担当者会議を定期的に行った。学校生活の中で中・重度と医療的ケアを必要とする児童生徒の保護者と情報交換を密に行ってもらい、日常の中で刻々と変わっていく要望・対応に対応しているように心がけた。指導医・主治医・看護師と連携を密にして要望に答えられるよう取り組んだ。	
(1) エカ	13	支援部	校内支援会議の開催及び福祉、医療等関係機関との連携を図り、適切な支援ができるようにする。	A	3.26	今後も個別の教育支援計画に基づき、適切な支援ができるようにする。関係機関とも必要に応じて連携を行っている。校内支援会議については、今後も学年主任等と連携しながら開催できるようにする。	
	14		地域の教育委員会、各地域のネットワークと連携しながら、適切な情報提供や地域支援を行う。	B	3.16	三田市、西宮市については市教委と連携しながら巡回相談を行っており、今後も継続して協力していく。また、各地のネットワーク会議において情報提供を行っている。これらの動きについては、本校教員にも周知していく。	○卒業後と関係機関との連携 -卒業後の生活がスムーズに移行しないことがあるという課題は以前からの問題であるようなので、何かあった時のフォローだけでなく、進路先との連携を深めていきたい。 -生徒ひとりひとりの卒業後の進路を考える上で、福祉・医療機関との連携はますます重要なものとなりつつある。定例の協議会等の場を設け、地域の児童生徒・保護者のニーズと地域の福祉・医療関係の特性・特性(医療的ケアへの対応・行動特性)に応じた支援等)を合わせて共有し児童生徒・保護者へ発信していただける仕組み作りの推進が求められていると思う。
(1) オ	15	キャリア教育部	将来の自分と社会とのかわり方や生き方について考え、児童生徒の個性や障害の状態、将来の進路希望等を踏まえながら、進路ガイダンス、実習説明会を実施し、キャリア教育だよりを通して、進路に関する情報発信に努める。	B	3.07	将来の進路希望を踏まえよりニーズにあった情報を提供するために、進路ガイダンスの日程と進路希望調査の日程が重複するようにする。またキャリア教育だよりの内容をより充実させる。	
	16		地域の関係機関と連携しながら、職場見学、校内実習、現場実習、校外学習等の体験的活動に取り組むことで、社会生活に対する興味や関心を高めて社会的、職業的自立に必要な力を育てる。	B	3.13	現場実習では、実習先の相談や反省会の出席を外部機関に依頼した。早めに外部機関との連携していきたい。高1の職場見学や小、中学部の校外学習では、見学だけでなく体験もできてよかったので、引き続き体験活動ができるだけ取り入れるようにする。	
(2) アウ	17	研究推進部	資質および実践力向上を目指した授業研究の推進のため、公開授業を企画・運営し、学校内外の意見を授業力向上に活かす。	A	3.27	5月の学校説明会に合わせた2日間の一般授業公開、12月の本校教員対象の授業公開研修週間、各教科で行う教科授業研修、研究授業と研究協議を併せた授業実践研修会、さくら訪問学級やひかりの森分教室で実施する研究授業など、随時各部署における公開授業を企画・運営し、学校内外の意見を授業力向上へと活かすべく努めた。	
	18		特別支援教育を中心とした専門性向上と研修の充実のため、外部専門家を招いた研修会や自主研修会を計画し、研修報告会や研究のまとめ冊子で情報共有を図る。	A	3.26	兵庫県特別支援学校教職員等資質向上事業の病弱教育研修講座Ⅰ～Ⅳを実施し、本校、ひかりの森分教室、さくら訪問学級、総合リハビリテーション訪問学級の各組織に関わる外部専門家を招いての研修を行った。また、特別支援教育研修講座や自主研修会、出張研修報告会を実施するとともに、グループ別研究を各部署にて行い、研究のまとめ冊子を作成、情報の共有を図った。	
(3) エカ	19	情報委員会	教職員の情報機器の利活用を促進するために、職員研修会などを通して教職員のICT機器の利活用を推進する。	B	3.08	ICT機器を活用することは成果がでている。しかし、ネットワーク環境(さくら訪問学級・ひかりの森分教室の生徒系LAN)が整っていないことや、貸出物品の取り扱いについての徹底等の課題がある。また、教職員のICT機器の利活用を促進するためにニーズに応じた研修を、引き続き考える必要がある。	○学校評価 -本年度より各部、委員会ごとの評価になっていて、具体的方策が立てやすく、評価しやすくなったように思う。課題も今後につながりやすいと思う。 -評価にあたり保護者だけでなく職員どののくらの判断材料が提示されているのかが分かりにくい。 -学校評価結果資料になること、基の学校経営の重点、重点項目と部や委員会の関連がわかりづらく、学校全体の評価として見にくい感じがした。 -学校評価のアンケートを保護者だけでなく、学校に来ていただく機会のある地域の方にもしていただきたいと思う。
	20		各学部・学年と連携しながら、HP及びブログを定期的に更新し、学校広報の推進に繋げる。	B	3.10	各行事を中心に各学部・学年と連携しながら、ブログを更新することができた。HP及びブログに関しては、個人情報取り扱いに配慮することや、広報の必要性の有無等、検討する事項が多いため、HP及びブログの在り方について見直し・検討が必要がある。	
(2) ア	21	人権教育推進委員会	本校の実態に即した人権教育を授業等に生かすために、情報を共有したり、人権に関する研修会を実施する。	B	3.16	夏季休業中に全体の研修会を実施した。本校の教員には好評であったが、分教室からは実態にあった内容をして欲しいとの意見があった。各分教室に人権担当がいるので、ニーズにあった研修会を各自で行う必要がある。また、全体にどんな取り組みが必要であるかの討議やグループワークを行う必要がある。	
	22		児童生徒が自己実現と、「共に生きる社会」の構築に向け、行事や交流及び共同学習等に主体的に取り組み、他者とのつながり大切や自尊感情を育てる。	B	3.16	交流及び共同学習では、同年代の児童生徒と一緒に活動することができた。また、活動内容を児童生徒の実態に応じたものに設定することで活動の中で意見を伝えたり、協力して取り組めることができた。今後も連携を取って取り組んでいく。	-保護者アンケートでは、わからないことが多いまま答える感じになっているので、より具体的な質問に数多く答えるほうが、正確に評価につながると思う。
(3) カキ	23	学校評議員会	本校の教育活動の理解促進と開かれた学校づくりのために、学校関係者・関係機関へ学校の情報を提供する。	B	3.17	学校目標やそれらを踏まえた学校評価の内容について学校評議員会にて学校関係者への情報提供を行った。今後は、学校関係者だけでなく関係機関への発信を含めた情報提供方法や提供する本校の情報の具体的内容について検討が必要である。	
	24		学校運営の改善のため学校評価シートを改定し、各部・専門部・委員会ごとに職員・保護者・学校関係者の評価や意見を求め、それらの意見を年度末にまたも来年度の学校運営目標に反映させ明確に示す。	A	3.21	本年度より各部・専門部・委員会ごとに目標設定を行い評価・結果の振り返りを行うことができたが、複数の分掌(本校・訪問学級・分教室)により評価にばらつきがみられた。今後は目標設定方法の工夫や各分掌への伝達方法、目標達成の進捗状況の確認などの検討を行い、今年度の結果を踏まえた目標設定を行う必要がある。	